

## 議長記者会見（第35回）会見録

日時：令和元年12月23日（木）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う福村議長（右）と徳野副議長（左）

皆さんご苦労さまです。

あっという間に1年が過ぎました。私としては非常に、例年以上に短かったなとそんな感じがします。

まずは我々、新しい議員任期がこの4月にスタートしました。その上で私にとっては、思いがけなく26年ぶり2回目の議長ということでびっくりしながら、でもやる以上は全力を挙げてということで今日までやってきました。

それで、その直後に新しい「令和」ということになりまして、議長をさせていただいたおかげで10月には即位礼正殿の儀、饗宴の儀に参加させていただきました。本当に文字どお

り新しい時代が来たなど、今そういう実感をしております。そういう中で令和元年、今年、私は石川県政と関わり深いもので、特に新しい時代が来るんじゃないかなという印象に残ったものが3つあります。

一つはやっぱり、この1年、石川県のスポーツ界、大変に私は華やかだったと思うんです。子供から大人までというか、例えて言うとハンドボールで芦城中学校が全国で1位、全国で2位が寺井中学校というこんなめったにないことが起こった。そしてついこの間、七尾の中学校が駅伝の女子で全国2位というような。中学校でそういうこともありましたし、高等学校はご存じのとおり、星稜高校が鳴り物入りでね。優勝はできませんでしたが甲子園を沸かしたこういうことがあったりね。

そしてこれはプロですけど大相撲の世界、遠藤、炎鵬、輝、名古屋場所でしたか三賞のうち2人が石川県という。遠藤と炎鵬だったんですけどこれも前代未聞のことでしたし、それから終始、今の相撲界は炎鵬の人気、これが抜群だということで石川県の名前をすごく前に出してくれた。

それからオリンピック前の年で世界選手権というか世界大会が各地で行われましたが、そこで次々と石川県あるいはゆかりの人たちが優勝する。これも考えられないことが起きている。だから今年はスポーツ特別賞を8人も出したという。これも見事なことだと思いますし、来年いよいよオリンピックですよ。したがってもうオリンピック内定選手が8人も決まっておって、恐らくこのほかにも何人か間違いなく選ばれると思います。まあこれまで10人を超えるオリンピック選手が石川県からなんて考えられなかったことであります。その上この選手たちは、恐らく来年のオリンピックで金メダルを複数、まあメダルということでは間違いなく複数のメダルを取れる実力の選手がいて、これは本当に石川県のスポーツ界はどうなったのかなと。

それからこれは地道な話ですけど、その前の事前合宿、これもなんだかんだ言われましたけど地方では石川県は恐らく10カ国以上来ていますから、これも開催自治体以外ではトップクラスであることは間違いない。だからこんなのをずっと見ていますと、我々、県外に行っても海外に行っても石川県を宣伝するときは山海の珍味、文化立国ということではいいんですが、これはこの調子でいくと石川県はスポーツ立国と言えるようになるかも知れない。そうしなければいけない。そして令和の時代、どうもそのきっかけができてくるのかなということを強く思っていますね。文化立国の上にスポーツ立国と言えるようになった石川県は盤石だなと。何とかそういう時代に早くしていかなければならないと、今年、非常に強くそれを思いました。

もう一つはですね、小松空港の国際化でありましてね。これも上海、台北便ができてから10年ほどなかなか新しい定期便ができないし増便にもならないということで、非常にある意味ではちょっと焦り気味だったんですけどね。令和になったら全部在来の定期便がふえましたね。上海は4便が6便になる。台湾に至っては、デイリーどころか9便になったわけですしね。それから韓国は一旦引き揚げましたけど、富山もそうですけど石川県はすぐ

に復活しましたしね。それから夏ダイヤとはいえ新しく香港便が定期便として就航いたしましたしね。それで11月に香港、タイへ行きましたが、タイも非常に感触がよくってね。恐らく私は2、3年のうちに定期便になるというふうに思っています。いろいろ勘案をすると、小松空港というのは非常に日本海側の拠点空港としてこの令和の時代、国際空港ということになるのではないかと、そんな予感のする年になったというふうに思います。

それからもう一つ、一番のニュースは国民文化祭、令和5年石川県でということが内定いたしましたし、特に私は平成4年の国民文化祭のその時に議長でありまして、そのときに今の天皇陛下が皇太子様で主賓でいらっしゃいました。それで3日間、今の知事が副知事で、中西知事はその頃ちょっと足を悪くしておられて外に出られなかったものですから、2人でご案内したそんな経験がありましてね。それがまた今議長をやらしていただいているときに2回目の国民文化祭が決定をして、初めて今度は天皇陛下としてお迎えする。非常にビックニュース、いいことが決まったなと思うています。

全体で石川県勢を見るとそんなことが今年私の印象に残っているといえますか、またある意味では来年からこれをさらに進めなければならないという課題だと思っています。

それから県政の話をして、12月議会、皆さんにいろいろとしっかり議論していただきました。やっぱり災害は日常茶飯事みたいになっていますから、風水害、地震も含めてね。そういう意味では、石川県は今年まあまあ免れましたが、いつ何どきっていうことですからその災害の問題や、また病院の統合もいきなり厚労省が言い出しましたから地域を中心にした医療の問題や、あるいは3年半後の新幹線敦賀開業、県内全線開業に向けての観光客の誘致や在来線の問題、また小松空港の問題にも相当の議論がありました。そういうことが中心で非常に皆さん時期に適した議論をしっかりとやってくれたなと思っています。

そういう中で特筆するというか、特筆までは行かないかも知れませんが、新しいこととして、一つは県議会の研修会を始めました。増田先生をお呼びして「第2期地方創生と地方議会の役割」というようなことでね。これは私、議長になったときに、もう少しお互いに議員は勉強しなきゃなんののではないかと。やっぱり丁々発止の議論をするためには、もう少し勉強をしないとなかなかやっぱり奥の深い議論はできない。そういう意味で釈迦に説法かも知れないけれど「議会として研修会を少しやりましょうよ」ということを皆さんに言って理解をいただいたので、やらしていただいて、皆さんの評価としては「非常に良かった」と「続けてほしい」という意見を非常に若い人を中心にして多かったと思います。それで2回目は3月議会の初日にまたやろうと思っています。これは新しい試みとして本当に定着していけばいいかなと、こう思っています。

もう一つは、皆さんご存じの玄関のところにある「杜若（かきつばた）」という像、それをモチーフにしたマスコットキャラクター。あの像はかつて広坂に県庁があったときに議事堂の中にあっただけです。議場にあっただけですが、こちらに来て玄関になって。私も議員を四十数年やっていますが、県議会を初めから見てきているのはあの人、というか像ですが、しかしいわけでね。やっぱり大事にしていかなんなど。そんな杜若像をモチーフに

した議会のマスコットキャラクターですが、なかなか「杜若」という字を読むのも難しいわけ。ということで愛称をつけようじゃないかという皆さんの意見でこれを全国に募集いたしました。それで千を超える応募がございましてね。そういう中から「石若丸（いしわかまる）」という名前に愛称を決めさせていただきました。「石若丸」っていうのはいろいろな意味があるのですが、「我々石川県議会は常に若々しく議論をして、そして常に一丸となって県民の負託に応える」それを「石若丸」しっかりと県民の代表として見てほしい」と、こういう意味で「石若丸」ということにさせていただきました。これから「石若丸」というネームが定着していくようにPRしていきたいと考えております。

それからもう一つは、3月議会におきまして議員提案として、種子条例というものをまとめさせていただきました。これは今、皆さんの意見を聴取させていただいております、それがまとまり次第、3月議会に議員提案として上程をさせていただくと。これはやっぱり農家の皆さんの非常に根本にかかわる問題で、せつかく何十年かかって開発した「ひやくまん穀」などがどんどん他へ流失してしまっただけは何の意味もないので、そういうものをきちんとやっぱり守っていくと、そういう意味で種子条例というものを作らせていただいて、石川県の農業のブランド化ということをしっかり進めていく。こういう意味でやらせていただく。

この3つがある意味では12月議会の議会としての新しい出来事だったかなと、こういうふうに思っています。

（徳野副議長）

今回の12月議会の中でよかったのは、個人的な感想なんですけど、安居議員さんと長田議員さん、そして打出議員さんの質問です。安居さんはこれからのJR並行在来線をどういうふうにしていこうという提案型でありましたし、長田さんは金沢港臨港地区の利用について分区という手法の提案型でありました。答弁を聞いている中において、執行部がしっかり受け入れようという部分が見えてよかったなと感じました。打出さんの場合は、消防行政についてどういうふうに住民を守るかといういろいろな提案があり、本当に聞いていて気持ちよかったという部分がありました。以上です。

<質疑応答>

記者

午前中の議会運営委員会の中で、小松空港について福井県議連との内々の協議会がという話が少しありましたけれど改めてその点についてお伺いしたいのと、新幹線の県内全線開業を見据えて小松空港の機能のあり方というものも問われてくると思いますが、その辺どのようにお考えですか。

福村議長

陸海空、これがそろっていることが石川県の大きな強みですね。陸の新幹線は金沢開業が5年前に終わって、3年半で間違いなく敦賀まで行く。大阪までが目標なんです、これはまだ随分時間がかかると私は思っているんですが。まあ石川県としては一段落、在来線の問題もありますけど。

それから金沢港は、これはもう20年前は釣り堀と言われましたけど。これが幸か不幸か小松工場を常陸那珂に移すという話が一時出ましてね。なんで出たかという「港がないから」と。金沢港じゃ用をなさないという話になりまして、これは水深が足りないということで、急遽慌ててどんどん掘りまして、これは大したもんやと思いますけどあつという間にやって、そして小松工場があそこへ移転してきたという、常陸那珂には行かなかった。まあどんどん貨物が出るようになっていきますから。そしてそれが予測もしなかった。これは想定外なんです、クルーズ船がそれに伴って来るようになって、50隻も。だから今の港ではみっともなく、だからかなりの金をかけたターミナルの改修が終わりますよね。来年ででき上がる。

そうすると今度は小松空港なんです。小松空港は昭和37年に開港しているんです。もう60年近くになるんです。どっちかという国防衛省におんぶにだっこ。あれは防衛省の空港ですからね。それで共存共栄ということでやってきたんですけど、これまでは継ぎ足し継ぎ足しで、エアターミナルも継ぎ足し継ぎ足しでやってきたんですが、ここまで来ると50年先とは言わないけれど、30年くらいの中期ビジョンというものを作って、滑走路は本当にこれ以上飛行機が来ても防衛省は大丈夫なのか。ある日突然これでもう打ちどめと言われたら大変ですからね。そういうことをやっぱり十分検討して必要なら2本目の滑走路を作らなならんし。それは別にしてもエアターミナルビルはですね、この間香港に行ったときもよく言われたが、出国するのに1時間も並ばなければならない。せめてもう3つぐらいレーンを。でも場所がないんですよ。それから中へ入っても今の300人乗りの飛行機で手一杯ぐらいなんです、タイが来るとなると300人乗りの飛行機が2機に重なる場合もある。今の状況でも国際線の中に入れてからでもかなり時間がかかる。コーヒーを飲む時間もない。これはやっぱり国際空港としていかんと言われとるわけですよ。だからこれはやっぱり近い将来、滑走路は別としても私は建てかえなければならない時期が来ているのではないかとこう思っていますね。そういう意味で、今年の3月議会でしたかね私は予算委員会でも質問をして、知事に「ここはやっぱり継ぎはぎ継ぎはぎ行き当たりばったりでやっとならんと、まあ新幹線も港もめどがついたんだから、今度は空港ですよ」と、「本格的な日本海側の拠点空港として、国際空港としてやって行くのならビジョンを作るべきだ」と、今言うような協議会を作るべきだということを強く申し上げたら、知事から「前向きに検討したい」という答弁があつて、それからずるずると1年が経ってしまったけど、だから何を一体するのかと言ったら、今、恐らく、私が作るんじゃないですよ。執行部の方でそういうものを作る準備に入っていると思います。委員

の選定などもやっているんだと思います。その前にこの間ちょっと空港議連からも入ってくれと言われたらという話があって、その時はどうかと思ったけれど、入った方がいいかなと思って了解だけとったところということです。まだ具体的に決まっていない。今やっている最中だと思いますよ。まあ来年早々にはそういうものが立ち上がると思います。

徳野副議長

やっぱり石川県と福井県の両方でやるんですね。

福村議長

両方ですからね。

記者

2県で合同でという話ですか。

福村議長

そうそう、福井県にも入ってもらわなきゃ。

福村議長

私は小松空港っていうのは、今福井県の議員にも入ってもらってやっていますけど、いずれ北陸3県でやらならんこと。富山にも入ってもらおうと思っているわけです。まあ失礼だけれども富山の場合は、河川敷の空港ですから300人乗りの飛行機に來いって言っても來れないですよ。そうするとタイなんかは入れないですから、国際便の場合は富山の人にも小松で乗ってもらわないとならんわけですから、私はいずれ、来年ぐらいには富山にも誘いをかけていこうかなとこう思っています。やっぱり北陸3県300万人と言わないとね。タイに言っても迫力が出ないし、受け皿としてね。

徳野副議長

逆にそう言ったら飛行機と新幹線が仲よくできる。国際線プラス飛行機アンド新幹線。

記者

小松まで新幹線が來たら乗り入れとかも。

福村議長

そうです。今、小松市長は小松駅から飛行場まで電気バス、無人バスを通そうかって思っていますから。あそこには日野自動車がありますからね。日野自動車の試作車と言いますか、試運転と言いますか、そうしようかと。駅から10分ですからね。

記者

新幹線に関してですが、今回10月の台風で約2週間運休になりましたけれど、宿の予約キャンセルが多く出たなど、いろいろなリスクが今回初めて明らかになったと思いますが、議長としてこれからどのように対処すべきとお考えなんでしょうか。

福村議長

あれはやっぱり率直に言えばJRのミスですよ。想定内のことだったんだから。あそこはマップで水がつくということがわかっていたところだからね。こんなこと言うと怒られるかも知れないけれど、昔からあそこは湿地帯だからね。だから誰も使わなかった場所なんだから。他県のことだからいろいろと言えなかったけれど、まあ今からきちんとやってもらわなければ、今後決壊してもどうもないようにね。そういう意味では石川県から京都・大阪まではその辺を吟味してやらないとね。新しく造るところがまたそんなところを通られたんじゃ話にならん。そういう防災対策というものを新幹線のルートを決めるときにも相当しっかり吟味してやってもらわないと。あるものがなくなると皆大変な迷惑を受けるわけで、そういう意味であれば一つの大きな教訓なんで、これから決まるルートは絶対に安全なところを通ってもらうことだと思います。

記者

災害で新幹線が不通になったりとか何かトラブルがあったりして石川県がまた混乱するみたいなことが、今後、もしあった時に新幹線ではない何かルートというか別のオプションみたいなものは考えていますか。

福村議長

今回は飛行機がある程度やったけどね。だから早く東海道につなげと言っているんですよ。あっちが駄目ならこっちに回ればいいんですよ。だから昔々から東海道の代替路線という北回り新幹線ということで50年前から言っているのに、札幌から九州までやっている今頃にこういうことをやっていること自体がおかしいんでね。日本の動脈なんでね。だから東海道に早くつながにゃならんということです。

だけどそれもね。これ余談になるけれど、そう思って我々は、本県議会は、米原って言ったんだけど、JRの都合もあるんでしょう京都を回り大阪になったんだけど、本当はそれなら京都までで一辺営業してくればいいんですよ。そこで東海道とつながるんだから。京都で開業すれば、知事が言っている札幌と同時開業になるんだろうけど、無理すればやぞ。だけどそこで一気に大阪まで行くとしたら20年以上はかかりますよ恐らくね。だからあなたがおっしゃる危険負担も背中に担いで走らんなんわけですよ。その辺

が私は非常に不満だけでもね。

しかも、これ水の心配はないと思いますけどね。京都で30メートル、もっと大阪の方へいくと40メートル地下を走ると言うんでしょ新幹線が。大変な工事ですよ。簡単に言うけどね平地を走る新幹線と30メートル、40メートル地下を走る新幹線と工事期間がどれくらい違うと思いますか。例えば京都の地下30メートルを掘るんでしょ、土をどこに上げるんですか。そのためにもう1本トロッコのトンネル掘らなならんですよ。どっか人がいないとこまで土を持っていく。そんなことを考えると本当に大変なことなんだけど、だから米原と、10年ほどでいくからね。と言ったんですけど、まあいろいろ事情があって京都、大阪。しかも京都で、敦賀までの開業にせんでもあれ京都にすればよかった本当は。そうすれば我々も京都まで行ければどっちでも行けるんだから。一気に大阪に行くっていうんだから。確かにねJRも京都開業にすればどっかに車両基地を造ってやらんなんからね、経費のこと考えると一気にもっていくんだらうけど、これはJRの勝手でね、と思いますよ。

記者

地方創生のことをおっしゃいましたけど、石川県は地方創生って明るい要素がいっぱいあると思うんですが、このままいけば地方創生っていうのは結構進むという見通しはありますか。

福村議長

石川県は優等生の方だけでもね。人口の減り方が少ないということだろうけど、減ることは間違いないのでね。人口そのものが減るんだから仕方ないですけどね。だからやっぱり本当に地方創生と国会の皆さんがおっしゃるのなら、もう少し抜本的な手を打たなければならぬ。そりゃ今のようにじわじわと、そんな地方創生ということやキャッチフレーズは竹下内閣のふるさと創生から始まってみんな言っている。何遍でも言ってるじゃうじゃと終わって、キャッチフレーズダブリをしているんだけど、今の石破さんの言っている地方創生、石破さんもやりにかかったけど1年やそこらで変わるもんだからね。その後地方創生大臣誰やわからなくなったわ。あなたわかる地方創生大臣。

記者

まあ、皆さんだれかって言われてもぱっと浮かばないかも知れないですね。

福村議長

そうでしょ、わからないでしょ。そのぐらい言ったということだけにしてしまっているんです。だから石破さんのときに言い出した国の施設を地方に移転、これだけでしょ。



記者

代表的なものですね。

福村議長

京都にちょっと文化庁をって、あれだけやけどね。これはやっぱりかなり思い切ったことをしないとね。出すなら出さないと。だけどそれはできない。それから企業だってね。やっぱり働く場所がなければ地方創生って、人が来ないわけですよ。いないわけですよ。だからそんなことを考えると、それもいい働き場所を求めるわけですからね、この頃みんなぜひいたくなってますから。そうするとやっぱり大企業の工場なり本社なりが地方に移ってこなければ本当の移入人口がふえるわけがないんでね。そのときには例えば地方に行った場合には、法人税を10年間どれだけ安くするかとかそのくらい思い切ったことをもう少しやらないとね。ただ行け行けと言ったって、みんなそりゃ東京は近いから便利やわいね。だから今、飛行機があり、新幹線があり、テレビ会議ができるこんな時代だから地方に来たってどうってことないんでね。だからやっぱり本社機能をね、小松製作所は少しずつ持ってきてくれているわけね。教育部門が来た、購買部門が来たと少しずつは持って来てくれているけどね。もっとどんと営業本部と経理だけ残して小松に来るとかね。そんなことをやらないとね。そのためにはやっぱりそうしたことによって、その企業にうんとメリットがあるというそれを与えないと来ないです。ただ行け行けと言っても。

さっき保育の皆さんが来ておられたから言うんだけど、この辺の保育所は空いているんですよ。子供も少なくなってるね。それで都会は待機児童が多すぎて困っている。そこで保育所を建てるのに四苦八苦でしょ。まず用地を探すのに苦労して、やっと見つかったもうるさいから来るなど、子供の声がいややか。そうするとまたできない。造るとなっても用地買収から何かと莫大な金がかかる。だから子育て予算をふやしているけどあれにもものすごくとられていますよ。だけどそれならもう造るなど、待機がいやなら地方へ、極端な話わざわざそれを求めて行っているんだから。こっちは空いているんだからね。そうするためには、皆さん地方に来てくださいと言うためには、鶏が先か卵が先かになるけども企業をこちらによこしてその人たちが安心して働く場所を作ってあげなきゃ。これをやらないと、それくらい思い切ってやらないとできないと思いますよ。地方創生は。

徳野副議長

開会日の講師に増田寛也さんを迎えての議員研修会、地方の若い女性がみんな東京へ行くという内容だった。どうしても都会にあこがれがあるんだろうけれど、全国的に男性よりも女性が東京へ出て行く。その中で神戸と京都と金沢のこの3つだけが、若い女性が残ってくれるという紹介があった。でも若い女性に「ここにいるか」と聞いてみると、や

っぱり「東京へ行く」と、やっぱりあこがれという部分が大きいんで。行政にできるのは、インフラ整備、女性が活躍できる部分をやっていくしかないんで。

福村議長

石川県はやっぱりもう一步進めて、地方に行こうというモデルケースにしなきゃならんわね。ある意味では、よく知事は日本海側のトップランナー県と言っているけど、正直言うと今なったところで、石川県はものづくりが盛んでこれだけ観光客も入ってくれるようになったからね。もう一步進めて、今度はやっぱり石川県に住みたいという、他の人がそう思えるようにもっていかないとね。まだそこまではいっていないね。